

グルジア政治・経済 主な出来事

【5月20日～5月26日】2013年

〔当地報道をもとに作成〕

平成25年5月28日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼チリクバ・アブハジア「外務大臣」とサナコエフ南オセチア「外務大臣」が会談(20日)

・サナコエフ南オセチア「外務大臣」が、アブハジアを訪問。今後の協力の見通しについて話し合い、2013年の協議計画に署名した。

【アブハジア】

▼アックワブ「大統領」がチェルノフ露大統領地域間・対外文化関係局長と会談(22日)

▼ソフミで、第2回ロシア・アブハジア人道フォーラムが行われる(23日-24日)

・教育・学術、スポーツなどの分野での協力が議論された。

・ロシア郵便とアブハジアの「国営」企業「アブハジア通信」が通信分野での「国家間」協力についての合意文書に署名。ロシア郵便は他国からアブハジア「共和国」への郵便物の転達について責任を負うこととなる。

【南オセチア】

▼ティビロフ南オセチア「大統領」とプーチン露大統領がノチで会談(21日)

・南オセチアの社会・経済問題が議論された。ティビロフ「大統領」は南オセチアに対する支持について感謝。プーチン露大統領は「独立承認から5年経っても、未だ解決すべき多くの問題があるのは残念だ」と述べつつ、ティビロフ「大統領」に対する支援を約束。

2. 外政

▼パンジキゼ外務大臣が日本を訪問(19日-24日)

・20日、城内外務大臣政務官と会談。
・21日、岸田外務大臣と会談。「両国外務省間の協力に関する覚書」に署名。下村文部科学大臣と会談。フィジー、マーシャル諸島、パプア・ニューギニア、パラオ、サモア、トンガの代表者と会談。

・22日、日本グルジア友好議員連盟のメンバーと会談。笹川平和財団でグルジアの外交政策や新政権によって進められている国内の諸改革について講演。

・23日、小寺 JICA 理事、経団連日本 NIS 経済委員会のメンバーと会談。駐日グルジア大使館主催の独立記念日レセプションに出席。

▼バヌアツがアブハジア承認を撤回か(20日)

・タイのチェンマイを訪れていたサーカシヴィリ大統領

がバヌアツ首相と会談。グルジア大統領府は「大統領がバヌアツによるアブハジア承認の撤回に対して感謝を伝えた」と発表。

・会談後、「サ」大統領は「これはロシアが外交において重大な敗北を喫した最初の事例であり、これが最後ではないと確信している」とコメント。

・22日、ヒントバ・アブハジア「外務大臣」は、グルジアのメディアが報じているバヌアツのアブハジア承認撤回は事実ではないとし、「バヌアツ首相が個人的な考えをサーカシヴィリ大統領に述べたに過ぎない」と説明。

・23日、ザカレイシヴィリ再統合問題担当大臣は、バヌアツによるアブハジアの承認撤回はまだ最終的に決定したのではなく、「首相が議会に対して、撤回のための作業を進めていると説明した」段階であるとして、「サ」大統領の尚早な発言を批判した。

▼ガリバシヴィリ内務大臣がバクーを訪問(21日-22日)

・21日、アリエフ・アゼルバイジャン大統領と会談。両国間の協力について話す。

・ほかに、ウスボフ・アゼルバイジャン内務大臣、ゲイダロフ・アゼルバイジャン緊急事態大臣らと会談。

▼アラサニア国防大臣がラトビアを訪問(22日-25日)

・パブリクス・ラトビア国防大臣と両国の軍事協力やグルジアの NATO 加盟などについて会談。

▼サーカシヴィリ大統領がエクアドルを訪問(24日)

・24日、コレア大統領の就任式に出席。

・マルテリ・ハイチ大統領およびベンサラ・アルジェリア上院報道官と会談。

▼ベトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣がポルトガルを訪問(24日)

・24日、ポルトガルの欧州問題国務大臣と会談。

3. 内政

▼17日の「国際反ホモフォビアの日」の暴力事件に関連した逮捕・処分

・19日、「軽度のフリーガン行為」により、未成年者1人を含む4人の青年が逮捕された。各自100ラリの罰金を支払い、21日に釈放された。

・22日、総主教府が、17日に「一部の聖職者が不適切なふるまいを行なった」とする声明を発表。

・23日、「集会・表現の権利の侵害」により、正教会の聖職者2人に対し罰金が科された。聖職者に対する行政処

分はきわめて異例。

・24日、「集会・表現の権利の侵害」により、さらに一般市民2人に罰金が科された。

▼司法最高審議会の改革案にウスバシヴィリ国会議長が署名(20日)

・翌21日に発効。発効から1カ月以内に審議会が改組されねばならない。

・22日、青年法律家協会が審議員の候補者を発表。

▼「人民会議」がニノ・ブルジャナゼ「民主運動・統一グルジア」党首を大統領選挙候補に指名(20日)

・「ブ」氏は出馬への意欲を表明。「大統領選挙が自由で民主的な環境で行なわれることを望む」とコメント。

▼メラシヴィリ前首相・現「統一国民運動」事務局長とチアベラシヴィリ前保健大臣・現カヘティ地方知事が逮捕される(21日)

・昨年の議会選前に公金520万ラリを「統一国民運動」(UNM)支持者にばらまいたとされる。

・2012年7月に「メ」首相の主導で発表された失業者の登録プログラムについて、検察は、登録した失業者は本来データベース作成に携わることになっていたが、実際にはUNMの選挙運動に従事していたと主張。保健省の社会福祉局がデータベース作成を担当していた。検察によれば、22,000人に及ぶ失業者が登録され、各人に約240ラリが支払われた。

・また、「メ」前首相は、内務大臣であった2009年5月に、個人の所有していたアチャラ地方の別荘を不当に押収し、別荘の改修のために内務省の予算から158,000ラリを流用したとされる件でも起訴されている。

▼クタイシ市裁判所がメラシヴィリ前首相の審理前拘留を決定(22日)

・「メ」前首相はトビリシの第9拘留所に移送された。

・一方、「チ」前保健大臣は2万ラリの保釈金を支払って保釈された。

▼メラシヴィリ前首相の逮捕に対する国内外からの反応

・サーカシヴィリ大統領はウクライナのティモシェンコ首相の逮捕を引き合いに、政府に対し、グルジアの「国際的な孤立」につながるような措置をとらないよう警告。

・22日、EUは「事態を注視している」「法的な手続きが公正で独立に行われることを期待する」との声明を発表。

・23日、米国は「捜査や訴追が、適切な手続きと法の支配に則り、政治的な報復となること、あるいはそのような印象を与えることを避けながら行われることが重要である」との声明を発表。

・23日、UNMは「大統領候補の一人」である「メ」前首相の逮捕は、野党に対する政治的な迫害であるとして、

政府を非難する声明を発表。

▼トビリシで「神権政治反対」のデモが行われる(24日)

・17日の事件で正教会の聖職者が大きな役割を演じたことを受けて、「No to theocracy」をスローガンに、「母語公園」に数百人が集まった。

・同時に、同性愛の「プロパガンダ」に反対するデモも行なわれた。

・2つのデモの衝突を避けるため、多くの警官が酒備された。

▼イヴァニシヴィリ首相が農業大臣にシャルヴァ・ピピア農業次官を指名(24日)

・5月2日にキルヴァリゼ前農業大臣が省内の汚職事件で辞任して以降、ピピア次官が大臣の職務を代行していた。「イ」首相は、汚職事件の裁判で「キ」前大臣に過失がなかったことが明らかになり次第、「キ」前大臣を復職させるとしている。

・大統領による承認を経て、大臣に就任する。

▼「法の支配」を訴えるデモ(25日)

・検察局前で行なわれた「法の支配」を訴えるデモに数百人が集まり、17日の事件で法律を犯した者が聖職者を含めて皆等しく罰せられることを求めた。

▼独立記念日(26日)

・24日、米國務省のウェブサイトにはグルジアの独立記念日を祝うケリー米國務長官のメッセージが掲載された。

・例年と異なり、トビリシ中心部での軍事パレードは行なわれなかった。

・サーカシヴィリ大統領はアフガニスタンを訪問し、ヘルマンド州に展開しているグルジア人部隊とともに独立記念日を祝った。

4. 経済

▼国家統計局が1月～4月の貿易統計を発表(24日)

・貿易額は3006百万ドル(前年同期比4%減)。輸出785百万ドル(前年同期比8%増)、輸入2220百万ドル(同8%減)。貿易収支は1435百万ドルの赤字。

・貿易相手国は地域別にCIS諸国33%、EU諸国26%、その他41%。主な貿易相手国はトルコ、アゼルバイジャン、中国、ウクライナ、ロシア。

▼第3回アゼルバイジャン・トルコ・グルジア・ビジネスフォーラムがアゼルバイジャン・ガバラで開催される(25日)